

---

# **転生したんでチート貰って無双したいです**

転生に夢を抱く者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生したんでチート貰つて無双したいです

### 【Zコード】

Z1812BA

### 【作者名】

転生に夢を抱く者

### 【あらすじ】

訳も分からぬまま、死んでしまった転生者。能力を貰い無双し  
たいと思いを抱きモンハンの世界に参る。何卒よろしくお願ひしま  
す

## 転生（前書き）

眞面目に生き抜けたいと願うのでもあります  
お願いします

## 転生

君は死にましたー

誰？

私かい？まあ、気にするなよ

分かった、俺をどうするんだい？

君を転生させてあげよつー

なんでだい？

それは私がミスをしたからだよ

モンハンの世界にいきたいなあ

オッケーだよ、なにか能力とかつけさせるかい？

じゃあ、身体能力を格段にあげて欲しい、武器自由に作れる（能力は自由につくれる）ようにしたいかな

了解だよ、じゃあ転生してひつしゃー！

いっしきまああああああああああああああああああああああ

穴に落ちた

これで退屈しのぎには最適だなあ。あ、ビリに落ちるかはランダムだ。

主人公の新たな物語が始まる

**転生（後書き）**

ありがとうございます。

転生したけど、何が変わった？（前編）

文の長さは多少変わります。

## 転生したけど、何がいる？

「だい・・・です・か？」

うつすら声が聞こえる

「大丈夫ですか？」

だんだん声が鮮明になってきた

「大丈夫ですか？」

大分意識が戻ってきた

「あ、ああ」

「良かつた」

体を起こす。

声を掛けてくれたのは女性のハンター（黒髪）のようだ

「ヒー、どこだ？」

「雪山です」

雪山？だとすれば

「君はハンター？」

「はい、やつですよリンクはいですが」とこり」とはまだ初心者。

「村に案内してくれないか？記憶がないんだ」

場所確保しなければいけないからね

「分かりました！ではこきましょ「ゾン！」なにつー？」

侵入者がきたようだ、ドドブランゴだった。

腕試しでもするか…武器は…あつた…初期武器がマシンガン（機関銃ぽい）でどうゆうこと？

弾薬無限で…さすがだ…。

無双したいけど、いきなりでびっくりした。

「エリは、共闘しないといけないな

「えー戦うんですか！？ 分かりました

彼女の武器は獵銃だつた。相性はとてもいいが、威力がほしい。

ドドブランゴが俺に向かつて突進してきた

それを軽くとんで躰す

「あー…」て聞いたのは氣のせいだ

機関銃をドドブランゴむけて撃つ

黒でしない弾幕を喰らって続けて力尽きた。

「ひれど、よし」

「じゅ、ないですよー。」

ん? なにか問題でもあつた?

「なんですかその武器! ? ボウガンでもないですよね? 」  
確かにこれ見たら誰でもやうなるよなあ  
だがしかし

「ひれ? 作った」

「え...ええええええええええええ...」

「驚くか?」

「やうですょー! あなた何者ですか?」

あ、どう説明しよう。記憶喪失でいいか

「記憶喪失なんだよね

「え?」

「いや、起りしてもうつた時から自分の記憶がないだよね」

「やつですか…」

「氣を落とす女性

「氣にするな、今から新しい人生が始まると思えれば」

「うん…」

「とこりうか、早く村に行きたいのだが」

「あ、はい忘れてました、付いて来てくださいー。」

わざの機嫌はどうしたものか  
とりあえず彼女に付いていく

「あなたの名前はなんですか?」

付いていく途中に話しかけられた  
名前ビビリじょうかな

「俺の名前はアレクだ。君の名前は?」

「アレクさんですねー私の名前はアーティーですー。」

彼女はアーティーといひ前ひじこ

「あ、もつすべで付きますよ」

確かにそこにはアーティー村が見えてきた。

さて、今日から楽しもうだ

転生したけど、何が何だ？（後書き）

次話は村の話です

## 村にたどり着いた（前書き）

村をオリジナルにするためミコトはポッケ村のハンターではなくなります

## 村にたどり着いた

村に着いた。

「少し村長さんと話していくので待ってくださいね」

「分かった」

そう言つとミコトは俺から離れて去つていく  
少しあびしいと思つたのは氣のせいだろう

しかし、いきなり無双できるとはあれは最早無双奥義なのではない  
だろうか

これから、多分ここでハンターやつていくと思うからいいか  
村は結構豊かで温泉があつたり、畠があつたりした。

とりあえず、不自由はあまりしなやうだ

「アレクさん！」

「ミコトがどうした？」

「村長さんが会いたいそつなので来てください」

「分かった」

なんか少し興奮気味でないか？嬉しそうな顔もしているが

そんなミコトの後を付いていく

「やあ、君がアレクかい？」

「はい、やつですが」

声を掛けってきたのは村長のミカホルさん（後で知った）だった  
結構若い女性だった

「やつやつはあのデーブランバードを倒してくれたってね？」

「まあ、やつですよ」

「あんた、その武器はなんだい？見たい」とないんだが

「作りました」

「武器も作れるのか！興味がわくね」

「ところで、あんた記憶喪失と聞いたんだが…」

「やつですね」

なんか答えるしかしてないよな  
ミコトはしつかり聞いているが、田を輝かせてるよ

「話は飛ぶがいいのハンターになつてみないか？」

「それは飛びますね、でも…」

なんとか、交渉してみよう

「うひ、便利に暮らせますわ

「ちゃんと、家も建てるし、不自由なこよつな生活せんてあらるよ

「なり、ニニでじゅう」

「ニニのーー」

「聞き手だったコトが嬉しそう」驚く

「まあ、じのみち暇ですし」

「それま、かつたじやあ早速作りかかるとこよつ」

「ありがとう」

「こやこや、じゅあもハンター不足で嬉しいんだよ」

「あ、といでこの村の名前は？」

「改めても念めてようこそ『アイルー村』にーー」

「これからよろしくお願こしますー！」

村長とハラドアが挨拶した

「ああ、まねじーー」

これから頑張らないとな。  
ん？アイルー村？あ、よく見たらアイルー結構いるな

ざつとみただけで20足ばかり歩いてゐるよ

「 「 「 いやー、」 」

アイルー達の声が聞こえたのは幻聴だろう

それで、この後はコトヒ村の案内を兼て挨拶をした。

で、今家の前にいるのだが

あの、短時間でどうやって建てた？？？？

そこには、先ほど村長に聞いてやつてきたがいつのまにか一軒家が建っていた

気にしたら負けなのだろう

とつあえず、部屋を確認するために家にはいる

キッチン、個部屋×3、倉庫、風呂（露店で、かなりデカかった）、  
寝室、アイルー部屋

最後のは多分アイルー達の部屋だらう。  
なんか、いろいろあった。

そして、隣にいるコトが

「なんで、こんなに大きいの？一目で分かるよ」

「そうだ、俺だって驚いた。」

何人か住める家だ

とりあえず、今日はゆっくり眠ることにした

村にたどり着いた（後書き）

アイルー村にしたのは、ただ単に作者がアイルー好きだからです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1812ba/>

---

転生したんでチート貰って無双したいです

2012年1月5日18時48分発行